

令和3年度

学校自己評価表（報告）

学校運営計画		
学校運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ○ 勤務時間を意識した働き方を心がけ、限られた時間内で成果の上がる教育活動を行う。 ○ コミュニティ・スクールとして、地域との連携を深め、魅力ある学校づくりを行う。 ○ 生徒の成長と進路希望実現のために、一人一人に対し、心のこもった進路指導を行う。 	
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標
<p>【昨年度の成果】 学力の向上と地域と連携した教育の推進について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国公立4年制大学に合格者3名を輩出した。入学後早期から意識啓発、進路希望に応える特別編成授業の実施、阿賀町の公設塾と連携した進路指導やキャリア教育の実施などが成果につながっているとともに、長期休業中や放課後の補習における指導が成果につながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多様な進路に対応できる確かな学力の定着と地域と連携した教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域と連携した教育の推進と進路実現に対する目的意識の高揚 ・ 習熟度別授業の推進 ・ 家庭学習習慣の確立
	<ul style="list-style-type: none"> ○ わかる授業の実践ときめ細かな指導 ○ 質の高い授業の実践と個々のニーズに応じた指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT機器を活用した授業改善と授業公開 ・ 研究授業の実施による教科指導力の向上 ・ 習熟度別授業の拡充
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の規則正しい生活習慣の確立 ○ 豊かな人間性と社会性の涵養 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣の確立 ・ 様々な学校行事を通じて人との関わり方を学び、人格を磨く
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域や関係機関と連携した体験活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 阿賀町、地元企業、教育委員会等の支援による教育活動の実施
<p>深い学びにつながる質の高い授業実践と生徒の理解度に応じた指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ICTを活用した授業実践を行い、多くの教員が、授業で活用できるように研修に取り組んだ。 ・ 国語、数学、英語において、習熟度別にのクラス編成を行い、生徒のレベルに合った指導を行えるように授業を実施した。 		
<p>生徒の規則正しい生活習慣の確立と豊かな人間性と社会性の涵養について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人権講演会など、学年の発達段階に応じた人権教育・同和教育に取り組み、互いの人権を大切にする意識を涵養することができた。 ・ 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、行事が縮小される中、体育祭をはじめとした学校行事や部活動、及び地域清掃活動、また、福祉体験・職場体験など、多様な体験活動を通して豊かな心と社 		

会性を伸ばした。

- ・ 反社会的な行動で、継続指導を要した事例はない。

【課題】

- ・ 手帳を活用した生徒一人一人の家庭学習の把握による家庭学習習慣確立への取り組み
- ・ 「主体的・対話的で深い学び」による思考力・判断力・表現力の育成
- ・ 一層の基礎学力の定着
- ・ ICT機器による効果的な授業方法の研修
- ・ 教職員一人一人の授業改善、生徒一人一人に寄り添った丁寧できめ細かな学習指導の充実
- ・ 人権教育の充実と、生徒の心の問題の把握、いじめや不登校の早期発見、的確・迅速・丁寧な対応
- ・ 体験活動での学習成果を日々の生活に反映
- ・ 教育活動の成果を上げ、学校の特色や魅力を広く発信し、志願者数を増やすこと
- ・ コミュニティ・スクールとして地域との連携を深め、地域に根ざした学校づくりを推進すること
- ・ 町立中学校との連携型中高一貫教育の推進を図ること

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価			
学力の向上と地域と連携し推進	・ 地域と連携した教育の推進と進路実現に向けた目的意識の高揚	・ 地域の外部講師による進路講演会を実施し、将来の進路についての関心を高め、また必要な知識を身に付けさせる。	A	A	A	
		・ 進路ガイダンスやLHRを利用し生徒の進路意識を啓発する。	A			
		・ 地域施設の協力を得て体験活動を実施し、職業観や就業感を育成する。	A			
		・ 図書館情報を発信し、魅力的な本や新着図書の紹介に努める。	A			
	・ 進路実現の支援	・ 職員が共通の指導方針の下、互いに連携し組織的に生徒を指導育成する。また、頻繁に面談を行うことできめ細かな指導を行う。	A			A
		・ 学習不振者に、放課後の特別補習等の指導を行う。大学進学希望者に、学習量と学習の質をしっかりと把握し適切に指導する。	A			A
・ 家庭学習習慣の確立	・ 手帳の学習記録欄を活用し、家庭学習状況の把握に努め、各学年やコースにおける学習時間の目標達成を目指す。	B	B			
深い学びにつながる質の高い授業実践と生徒の理解度に応じた指導	・ 授業改善の推進	・ 各種テストの結果を分析して授業改善の方途を明確にし、それを生かした指導を行う。	A	A	A	
	・ 指導方法の工夫改善	・ 職員を対象に情報機器の取り扱いや情報管理に係わる意識啓発の取組を行う。	A			
生徒の規則正しい生活習慣	・ 基本的生活習慣の確立と豊かな人間性の	・ あいさつ、返事がしっかりできる。時間や提出物の厳守。身だしなみを整える等、適時指導する。	A	A	A	
		・ 生徒に対し個に応じた様々な支援をすることにより、達成感と自	A			

の確立と豊かな人間性と社会性の涵養	育成	己有用感を獲得させる。		A	B
		・交通違反及び交通事故0宣言を行い、交通講話や実技講習会を通して、安全への意識を高め交通ルールを遵守できるようにする。	A		
	・いじめの撲滅	・発達段階に応じた内容で、学級ごと人権教育、同和教育の授業を実施する。	A	B	
		・道徳、LHR、総合の時間を通して人権教育、仲間づくり、集団づくりを図り、生徒の学級（学校）満足度向上を目指す。	B		
地域や関係機関と連携した体験活動の充実	・地域や関連機関と協力した体験活動の実施	・総合学習の福祉体験や事前学習を通して、社会に対して目を向けさせ、自己の適性や進路について考えさせる。	A	A	A
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方の支援を受けて探究活動や体験活動を実施し、生徒は主体的・対話的な授業をとおして自身の進路実現に向けて取組んだ。 ・ICT活用のための校内研修を実施し、授業において積極的にICT機器を活用する教員が増加した。 ・「人権週間」において、学年の発達段階に応じた人権教育・同和教育に取り組み、互いの人権を大切にする意識を涵養ができた。 		総合評価		
			A		